

上関地点 2025年度 下半期の環境監視調査結果について

水質調査の結果は、管理目標値を満足していた。

陸生、海生生物については、過去の調査結果と比較して顕著な変化は見られなかった。

項目		調査時期	調査結果概要												
水質	陸域工事排水の水質	10月10日	水素イオン濃度、浮遊物質量ともに管理目標値内であった。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>調査結果</th> <th>管理目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水素イオン濃度</td> <td>7.2～7.7</td> <td>5.0以上9.0以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊物質量 (日平均値)</td> <td>12mg/L 以下</td> <td>150mg/L 以下</td> </tr> </tbody> </table>			項目	調査結果	管理目標値	水素イオン濃度	7.2～7.7	5.0以上9.0以下	浮遊物質量 (日平均値)	12mg/L 以下	150mg/L 以下	-
		項目				調査結果	管理目標値								
		水素イオン濃度				7.2～7.7	5.0以上9.0以下								
		浮遊物質量 (日平均値)				12mg/L 以下	150mg/L 以下								
11月11日															
12月11日															
1月8日															
		2月12日													
		3月12日													
陸生生物	ハヤブサ	2月25日 3月10、27日	鼻繰島において、3月に雄、雌の親鳥を確認した。 なお、親鳥による抱卵行動は確認されていない。			写真1									
海生生物	潮間帯生物	10月6～8日	植物ではヒジキ、マクサなど32種、動物ではイタボガキ科、クロフジツボなど40種を確認した。			写真2									
	海藻草類		ジョロモク、サビ亜科など29種を確認した。												
	底生生物		ムラサキウニ、アカウニなど4種を確認した。												
	スナメリ	10月、3月 (週1回・計8日)	確認回数は計7回、延べ13頭を確認した。			-									
	カクメイ科等の貝類	11月5～7日 2月4、5日	カクメイ科の貝類は確認されなかった。 タイドプール※2箇所のうち1箇所は、過去に岩盤の崩落があり、引き続き崩落の恐れがあるため、1箇所で調査を実施した。			-									

※ タイドプール:干潮時に海辺の岩場にできる潮だまり

【参考】

《環境監視調査計画以外の環境調査》

○ カムリウミスズメ(写真3)

10月に1個体(鼻繰島の北)、1月に4個体(鼻繰島の西[2個体])、(天田島の東[2個体])、2月に17個体(鼻繰島の南[2個体])、(天田島周辺[7個体])、(宇和島の北西[4個体])、(叶島の西南[4個体])を確認した。

○ カラスバト(写真4)

鼻繰島において、10～3月の各月で姿および鳴き声を確認した。

計画地点においては、10月、3月に鳴き声を確認した。

○ ミサゴ(写真5)

鼻繰島において、3月に抱卵行動を確認した。

天田島においても、3月に抱卵行動を確認した。

○ クロサギ(写真6)

鼻繰島において、1月に既知営巣地周辺の岩場で1羽を確認し、3月にも周辺の岩場で3羽が同時に確認された。

【調査写真】

写真1:ハヤブサ



親鳥(雌) (3月10日)



親鳥(雄) (3月27日)

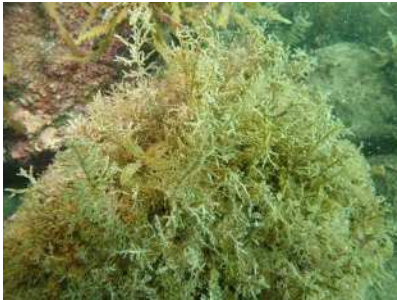
写真2:潮間帯生物、海藻草類、底生生物



ヒジキ(10月7日)



イタボガキ科(10月7日)



ジョロモク(10月7日)



ムラサキウニ(10月8日)

写真3:カンムリウミスズメ



(2月5日)

写真4:カラスバト



(12月11日)

写真5:ミサゴ



(3月10日)

写真6:クロサギ



(3月26日)

以上